

単位認定インターンシップに行ってきました (File.6)

(授業科目名：世界教養プログラム／就業体験)

派遣先企業・機関名：株式会社ファーストリテイリング

配属部署：人事部新卒採用チーム

研修期間：2019年7月23日～2019年8月13日（15日間）

国際社会学部国際社会学科南アジア地域/インドネシア語国際関係コース 2年 加藤 彩

(他 国際社会学部国際社会学科西南ヨーロッパ地域/イタリア語 1年 川嶋 茉湖)



■参加した理由

本インターンシップは時間に余裕のある1、2年生の時から企業で実務を行えるという内容で、そこに魅力を感じました。この点が1つの理由として挙げられます。また、関心のあるグローバル企業が多く実習先として挙げられており、経験を積むのには最適だと考えました。

2点目の理由としては、私が将来の進路を未だに明確にできていなかったということです。2年になってから、自分の中にこのままでいいのか、というような漠然とした焦り、不安がありました。就職するにしても、進学するにしても、自分は自身の進路に対して何も有利なことができていないのではないかと日々考えていました。恐らく進路に対する情報量が圧倒的に少なく、焦りばかり大きくなっていったのだと思います。そのため、このインターンシップに参加することで何らかのきっかけを得られたらいいと考えていました。

*ファーストリテイリングとは

ファーストリテイリングは、ユニクロ、ジーユー、セオリーなど複数のブランドを世界中で展開する企業です。素材調達から企画・生産・販売までの一貫したプロセスにより、高品質な服をリーズナブルな価格で販売しています。売上規模は、世界のアパレル製造小売業の中で第3位です。グループの中核事業であるユニクロは、24の国と地域に2,196店舗を出店し、約1兆9,000億円の売上を創出しています。ファーストリテイリングは服のビジネスを通じて、世界中の人々の生活をより豊かなものに変え、社会の持続的な発展に貢献していきます。

<https://www.fastretailing.com/jp/>

■インターンシップの内容

人事部新卒採用チームにて3週間業務を行いました。

人事部が計画した新規施策であるインターンシップ型のプログラム、「Global Management Program」(以下GMP)が2週目に開催されました。GMPではスタッフとして運営の仕事をしたり、GMPの参加者に混ざってセッションに加わったりしました。そして、そのGMPの実施背景を理解したうえで次回に向けた改善点をプレゼンテーションの形で提案しました。提案には優秀な人材を採用し続けるためにファーストリテイリングが実施すべきことを盛り込みました。さらに、社員の方々に読んでもらう記事を集めた素材を自分なりにまとめ、社内に向けてGMPをマーケティングするためのアウトプットを作成しました。

これらの提案作成のためには、GMPに同行し、GMP参加者へのインタビューやGMP事後アンケートの作成・実施などで素材集めを行いました。インタビューやアンケートは主に英語で行い、実施後はそれらを文字に書き起こす作業やまとめる作業をしました。また、それらの計画立案・実施・まとめなどのタイムマネジメントをしました。



■記憶に残るエピソード

ファーストリテイリングでは、業務を行う際、行動や質問、発言など全てに意味を求める傾向があると思います。色々な部分で「目的は何か、それはやる意味があるのか」という言葉を多く頂きました。これはどんな会社でも同じだと思います。無駄を削り、より良いものを作っていくという姿勢がこのような言葉にもつながってくるのだなと感じていました。求められていた「意味を捉える、一番大切なことは何かを常に考える」ということが私にとってはインターンシップ中で最も印象に残ったことだと言えます。



■自分の気づき、学んだこと、これからどう活かすか

インターンシップの中で多様な経歴を持つ社員の方々と関わり、段々と自分の考えも変わっていきました。就活・就職に焦るのではなく、自分はもう少し色々なことに目を向けてみるのもいいのではないかと思えました。

また、自由と責任の兼ね合いの中で与えられた裁量権を最大級に使いこなせる、これが優れた人材だということが、このインターンシップでの一番大きな学びになりました。そのための手段として、インターンシップを通じて知った「多面的に見ること」や「相手への思いやりを持つこと」が重要だと思います。さらに、私が学んでいるウルドゥー語が話のきっかけになったりと、自分にも磨ける引き出しがあると知りました。英語やウルドゥー語といった言語はもちろん、多くの面で知識を得、引き出しを増やしていきたいです。この学びは大学でも、もちろん社会に出ても生かせると思います。



■学生への呼びかけ（参加して良かったこと）

会社では色々な人が働いていますが、実際に関わってみないと分からないことが多くあると思います。私にとって、企画を立て、書類を作成し、ミーティングでブラッシュアップする、といった会社の生の様子を体験したことは、今の自分と将来の自分のギャップを埋めるためにとても役立ちました。本格的な就職活動が始まる前(1、2年次)にインターンシップを体験することで、その後の大学生活にも活かせると思います。

■感謝のことば

これから進路を選択する際、また社会人になってからも、自分はどのような要素を大切にしていきたいのか、という基準を知ることができました。株式会社ファーストリテイリング人事部の皆様、お忙しい中インターンシップ受け入れにご協力頂き、ありがとうございました。また、本インターンシップにご協力頂いた東京外国語大学職員の皆様、ありがとうございました。

